

日長社戦没者慰霊碑

日長社は第 26 代継体天皇（507 年～531 年）の御代、当地が開拓され、五穀豊穰・人民繁栄の守護人として日向国笠狭御崎の神を勧請して当社を創祀、日長の宮と呼ばれたという。

祭神は吾田鹿葦津姫尊（あたかしつひめのみこと）・天津日高日子番能邇々藝尊（あまつひこひこほのににぎのみこと：農業の神）。1325（正中 2）年に大日靈貴尊（おおひるめのむちのみこと：天照大神）を合祀し、現在 3 柱を祀ると言われているが、異説もあって、石長姫命、肥長比売命などを祀りという説もある。境内入口、鳥居の右手には秋葉社。社殿の左手には、稲荷・琴平・猿田彦社が祀られている。

1879（明治 12）年に崇福寺境内にあった「中島郷学校」が手狭になったため日長神社の敷地内に校舎が新築され「中島学校」になった。学年は 1 年～4 年までであったが、実際には学年児童の半分くらいが通っていた。1880（明治 13）年の「中島学校」の児童数は 128 名で、校区は上羽角、下羽角、下中島（現在の中島）、高畑および安藤であった。



日長社入口 20150727



日長社 社殿 20150727



日長社戦没者慰霊碑 20150727

境内には戦没者慰霊碑とその社殿があり、慰霊碑には次のように記載されている。



日長社戦没者慰霊碑 20160608

・戦没者慰霊碑（表面）

元帥陸軍大将正二位大勲位功一級公爵大山巖君題字
盡忠報國（じんちゅうほうこく）
赫山書



大山巖

・戦没者慰霊碑（裏面）

日露戦争従軍者			
戦死者			
歩兵上等兵勲八等功七級	榊原太郎吉		
歩兵上等兵勲八等功七級	市川勇吉		
歩兵上等兵勲八等功七級	井上甚之助		
一等水兵勲八等功七級	鋤柄仁右衛門		
歩兵二等卒勲八等	杉浦鎌吉		
輜重輸卒勲八等	杉浦惣四郎		
従軍者			
歩兵上等工長從七位勲六等	佐口薪水	歩兵一等卒勲八等	齋藤仙次郎
歩兵軍曹勲七等功七級	堀内勝吉	歩兵一等卒勲八等	新家米吉
二等機關兵曹勲八等	渡邊來助	歩兵一等卒勲八等	鍋田鶴吉
輜重兵伍長勲七等	新家伊三郎	歩兵一等卒勲八等	足立與三郎
歩兵上等兵勲八等功七級	市川条三郎	歩兵一等卒勲八等	山本徳次郎
輜重兵上等兵勲八等	杉浦惣四郎	輜重輸卒組長勲八等	杉浦忠次郎
歩兵上等兵勲八等	鍋田清次郎	砲兵輸卒勲八等	太田乙助
歩兵上等兵勲八等	柵木惣太郎	輜重輸卒勲八等	鈴木新藏
歩兵一等卒勲七等	大島健吉	輜重輸卒勲八等	鋤柄虎次郎
歩兵一等卒勲八等	天野新太郎	輜重輸卒勲八等	大竹吉次
歩兵一等卒勲八等	大竹國藏	輜重輸卒勲八等	小林辰造
歩兵一等卒勲八等	村山初次郎	輜重輸卒勲八等	早川清次郎
歩兵一等卒勲八等	水野恒太郎	輜重輸卒勲八等	石川己郎九
輜重輸卒勲八等	杉浦吉三郎		
輜重輸卒勲八等	大竹米吉		
輜重輸卒勲八等	杉浦善次郎		
輜重輸卒勲八等	石原福松		
輜重輸卒勲八等	大竹光三郎		
輜重輸卒勲八等	早川宇野吉		
歩兵一等卒	稲吉健一郎		
近衛歩兵二等卒	杉浦藤三郎		
歩兵二等卒	水野淳治郎		
歩兵二等卒	市川安吉		
歩兵二等卒	牧銀彌		
輜重輸卒	高木勇次郎		
明治三十九年四月建立 碧海郡中島村尚武會 下中島村、安藤、高畑			

社殿には次のように記載されている。

・戦没者慰霊碑横の社殿（裏）

修復奉祝典 中島安藤総代会			
会長（境）	八木健太郎、	会計（上側）	川原正己、八幡 玉田廣、上側新町 若松隆徳
新町	榊原幸一、	本町	新家慶一、後屋敷 渡邊松二、小園 榊原定男
高畑	腰山義之、	安藤	杉浦 和博、神社総代 本田小市 加藤勝 小林則五
工事関係	杉山定一 栗本昌彦	安田寿童、	宮司 赤堀清彦、遺族会 足立勝成
平成十年七月二十八日 札記 榊原定男			



日長社戦没者慰霊碑の社殿裏 20160608

【日露戦争】

日露戦争（にちろせんそう）は1904（明治37）年2月8日から1905（明治38）年9月5日まで行われた。日露戦争は大日本帝国とロシア帝国との間で朝鮮半島とロシア主権下の満洲南部と、日本海を主戦場として発生した戦争である。両国はアメリカ合衆国の仲介の下で終戦交渉に臨み、1905年9月5日に締結されたポーツマス条約により講和した。講和の結果、ロシア領の南樺太は日本領となり樺太庁が設置され、ロシアの租借地があった関東州については日本が租借権を得て、関東都督府が設置された。

【大山巖（1842～1916）】

大山巖（おおやまいわお）は、日本の武士（薩摩藩士）、陸軍軍人、政治家。幼名は岩次郎。通称は弥助。雅号は赫山、瑞岩。字は清海。称号・階級は元帥陸軍大将。栄典（位階勲等および爵位）は従一位大勲位功一級公爵。大警視、陸軍大臣、陸軍参謀総長、文部大臣、内大臣などを歴任した。西郷隆盛・従道兄弟は従兄弟にあたる。

日清戦争直前には右目を失明していたという記録が残っているが、日清戦争では陸軍大将として第2軍司令官、日露戦争では元帥陸軍大将として満州軍総司令官を務め、ともに日本の勝利に大きく貢献した。同郷の東郷平八郎と並んで「陸の大山、海の東郷」と言われた

【盡忠報國】

君主に忠義をつくし、国家に報いること。

